



## 中谷 貴之 (なかに たかゆき)

## 活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループ

活断層・火山研究部門マグマ活動研究グループの中谷貴之と申します。東北大学で博士号を取得したのち、2019年からプロジェクト型研究員として同グループに在籍しておりましたが、今年の4月からパーマネント型研究員となりました。私はこれまで、地

球内部に由来する流体相(マグマ、水流体、ガス)の移動・蓄積過程を理解することを目的として、岩石試料の分析や高温高圧実験を行ってきました。特に産総研では、巨大噴火の切迫性評価に係わる知見整備の一環として、十和田カルデラで巨大噴火を起こした珪長質マグマが、どのような深度で蓄積していたのか推定するために、実験岩石学的研究を行いました。GSJには、日本国内で唯一の性能を有する内熱式ガス圧装置が整備されており、地殻内のマグマの蓄積深度を精度よく推定することができます。今後は、GSJの内熱式ガス圧装置をさらに活用することで、より幅広い視点から研究を進めたいと考えております。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



## 飯島 真理子 (いじま まりこ)

## 地圏資源環境研究部門 地下水研究グループ

今年度より地圏資源環境研究部門地下水研究グループに研究員として配属されました飯島真理子と申します。北里大学大学院からの学位取得後、産総研イノベーションスクール、地質情報研究部門における日本学術振興会特別研究員を経て、産総研に加わることとなりました。

取り組んでいきたいと考えています。将来的には沿岸生態系保全を目指した陸水管理や整備の一助となる研究に貢献したいと考えています。今後とも、ご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

これまでサンゴなどの沿岸生物に影響を及ぼす陸域負荷について研究を行ってきました。沖縄県の井戸水、湧水の調査から地下水の流れを求め、陸域由来のリン酸塩や重金属が海域に流入、石灰質の底質に吸着・蓄積することで沿岸生態系に影響を及ぼすことを明らかにしてきました。

今後は、上記の研究を通して得られたさまざまな経験をもとに、水文環境図の作成や微生物を対象とした地下環境の解明に取り組めます。これらの研究を通じて、地下水や河川等の陸水管理と沿岸生態系保全のつながりを理解するとともに、種々の社会課題の解決に





## 細野 日向子 (ほその ひなこ)

活断層・火山研究部門 地質変動研究グループ

活断層・火山研究部門の地質変動研究グループに修士型研究員として採用されました細野日向子です。修士課程の間はリサーチアシスタントとして同グループで研究をし、日本大学にて修士号を取得しました。

私はこれまで地震発生サイクル中の断層周辺の流体挙動を解明することを目的に、宮崎県の延岡衝上断層露頭で観察される鉋物脈を対象とした研究を行ってきました。鉋物脈は、地震発生時に開口した亀裂の形状を保存していると考えられます。この鉋物脈の幾何学情報にクラックテンソル理論を適用し地震発生時の断層周辺の浸透率を求めた結果、断層周辺の浸透率は地震発生後に最大で約 $10^8$ 倍流れやすくなること、また、亀裂の姿勢が主透水方向に大きく影響することが分かりました。

今後は亀裂性岩石の力学・水理学特性の評価のため野外調査と室内実験を行い、幅広い知識と技術を学んでいきます。まずは自分の研究を確立させるため、博士号の取得を目指して頑張ります。これからどうぞよろしくお願い致します。



## 羽田 裕貴 (はねだ ゆうき)

地質情報研究部門 平野地質研究グループ

羽田裕貴です。2019年度に茨城大学の博士課程を修了し、極地研、産総研のポスドクを経て、今年度から地質情報研究部門平野地質研究グループに配属されました。

学生時代は、房総半島の鮮新統から更新統を対象に、微化石の安定同位体分析と堆積岩の残留磁化分析を用いた年代層序の構築、古気候・古地磁気変動の復元をテーマに研究を行ってきました。地球の気候システムの理解や地磁気逆転メカニズムの解明、気候・地磁気変動の将来予測に資するデータの提供をモチベーションにしています。産総研に来てからは所内外の方々のご協力のもと、海成の堆積岩だけではなく、沿岸域の海成—非海成層、湖成層、河成層、半深成岩など幅広い試料の残留磁化分析を経験してきました。

今後はこれまでの知識と技術を活かして、平野域や沿岸域の層序・地層分布の解明とその形成プロセスの理解、年代制約の高精度化を目指して研究・業務に取り組んでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。

